

インフォシス(NYSE: INFY) 2016 年度第 4 四半期および 2016 年度通期の決算報告を発表

バンガロール(インド): 2017 年 4 月 13 日

1. ハイライト

2016 年度の売上高は約 1 兆 1,495 億 4,400 万円(102 億 8 百万ドル)で 1 兆円(100 億ドル)を突破

2016 年度の売上高は米ドル・ベースで 7.4%、恒常通貨ベースで 8.3% 増

2016 年度の営業利益率は 24.7% (前年度は 25.0%)

2016 年度の 1 株当たりの利益は 0.94 ドルで前年比成長率は 4.3%

第 4 四半期の前四半期比売上成長率は米ドル換算で 0.7%、恒常通貨ベースでは横ばい

第 4 四半期の営業利益率は 24.7% で、基本 1 株当たりの利益は 0.24 ドル

現金、現金相当物および投資などから成る流動資産は、2017 年 3 月 31 日時点で 59 億 7900 万ドル

2017 年度の売上高は恒常通貨ベースで 6.5% ~ 8.5% 増、営業利益率は 23% ~ 25% 増の見込み

2. 2016 年度の配当

取締役会は、2016 年度の最終配当金 1 株あたり 14.75 ルピー(ADS*あたり 0.23 ドル)を発表。これは 4,078 千ルピー(628 万ドル)に相当します。中間配当 1 株あたり 11 ルピー(ADS あたり 0.17 ドル)を含めると、2016 年度の配当総額は 1 株あたり 25.75 ルピーで、支払総額は 7,119 千ルピー(1,085 百万ドル)となります。これは 2016 年度税引き後利益の 49.6%、フリーキャッシュフロー** の 63%に相当します。

3. 資本配分方針

取締役会は、戦略および運用面での中期的なキャッシュ要件を考慮し、当社の資本配分方針を検討の上、承認しました。

資本配分方針の主なポイントは下記の通りです。

1. 現在の方針では、税引き後利益の 50%までの配当を支払っていますが、2017 年度からはフリーキャッシュフロー** の 70%までを(配当金および自社株買戻による方法で)支払う予定です。

2. また取締役会は 2017 年度は株主への支払金額 13,000 千ルピー(20 億万ドル)* を特定しました。

4. 経営陣の異動

2017 年 4 月 13 日の取締役会で Ravi Venkatesan を共同会長として独立取締役役に任命しました。Ravi Venkatesan は、2011 年 4 月から取締役を務め、在籍期間中インフォシスの戦略方針の策定に大きく貢献しました。

5. 財務ハイライト

国際財務報告基準(IFRS)に基づく 2016 年度通期および第 4 四半期の連結決算

2016 年度通期

- 2016 年度通期の売上高は 102 億 800 万ドル
前年比成長率は名目ベースで 7.4%、恒常通貨ベースで 8.3%
- 2016 年度通期の営業利益は 25 億 2000 万ドル
前年比成長率は 6.1%
- 2016 年度通期の純利益は 21 億 4000 万ドル
前年比成長率は 4.3%

第 4 四半期

- 2016 年第 4 四半期の売上高は 25 億 6900 万ドル
前期比成長率は名目ベースで 0.7%、恒常通貨ベースでは横ばい
前年比成長率は名目ベースで 5.0%、恒常通貨ベースで 5.3%
- 2016 年第 4 四半期の営業利益は 6 億 3400 万ドル
前期比 0.9% の減
前年比では 1.5% の増
- 2016 年第 4 四半期の純利益は 5 億 4300 万ドル
前期比 0.8% の減
前年比では 1.8% の増

6. 業績見通し

IFRS に基づく 2017 年度通期の見通し(連結):

- 収益は恒常通貨ベース*で 6.5% ~ 8.5% 増の見通し
- 2017 年 3 月 31 日の為替レート**では、米ドル換算で 6.1%~8.1% の収益成長が見込まれる

*2016 年度恒常為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.75、ユーロ/米ドル 1.09、英ポンド/米ドル 1.30

**2017 年 3 月 31 日の為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.76、ユーロ/米ドル 1.07、英ポンド/米ドル 1.25

最高経営責任者 ビシャル・シッカは次のように話しています。「季節的に弱含みの四半期において実行上の予期せぬ課題や妨害により全体的な業績に影響が出た一方で、戦略実行にプラスの兆しも数多く見られました。ソフトウェア主導のサービスは力強い勢いを見せ続け、Mana や当社の AI プラットフォームの継続導入により顧客の成功も続いています。ゼロ・ディスタンスはイノベーションに向けた草の根の文化的活動として 2 周年を迎え、顧客の強い共感を呼んでいます。また、従業員エンゲージメントにより、特にトップの業績を上げている社員の離職率が押し下げられています。今後は、当社環境のダイナミクスに対するレジリエンスを強化し、インフォシス変革への道である戦略の実行に意を決して取り組み、すべてのステークホルダーの長期的な価値を推進することが必須です。」

最高業務執行責任者 U. B. プラビン・ラオは、「より良い従業員エンゲージメントの重視により、今四半期の離職率は減少しました。第 4 四半期中の稼働率は 82% を記録し、ここ数年間で最も稼働率の高い四半期となりました。」と述べています。

最高財務責任者 M.D. ラングナトは、「業務効率に重点的に取り組み続ける中、2016 年度の営業利益は安定していました。2016 年中の営業活動によるキャッシュ・フローは堅調で 20 億ドルを超え、新記録となりました。当社の資本配分方針は、戦略的ニーズと業務上のニーズの均衡と、株主利益の強化を目指しています。」

7. 事業に関するハイライト

第 4 四半期及び 2017 年度、当社は刷新されたサービスに加え、新しいソフトウェアとサービス、そして学習・教育の文化を通じて、顧客のコア・ビジネスにおける自動化とイノベーションを引き続きサポートしました。

RENEW

第 4 四半期、当社はデジタル及びクラウドに関する新しいテクノロジーや新しいデータ及び分析機能を導入し、メインフレームランドスケープ改修を実施するにあたって顧客と密接に連携しました。また、当社のゼロ・ディスタンス・イニシアチブを通じて、すべてのプロジェクトで草の根イノベーションを引き続き推進したことにより、インフォシスにおける文化変容が活性化されました。さらに 3 月には、ゼロ・ディスタンスの 2 周年と 2000 件のイノベーション・アイデア導入の祝賀を行いました。そのイノベーション・アイデア導入の中でも主要な取り組みだったのが、Aon Affinity や Colony Brand とのプロジェクトです。

Affinity の IT プロジェクトマネージャ James Branan 氏は、「PLUS は Aon にとって主要ビジネスユニットのひとつです。インフォシスは、我々が PLUS の年間プロセスや一部の月次財務照合プロセスにおける作業実績を向上することに専念できるよう支援してくれました。同社は、**ゼロ・ディスタンス**を活用して PLUS の刷新プロセスサイクル時間を、全体で 80 パーセントも削減するという、まさに驚くべきアイデアを提供してくれたのです。また、以前は主要財務プロセスの処理を完了するのに丸一日もかかっていたのですが、インフォシスは、それらプロセスの一部を自動化するインハウスツールを開発しました。そのおかげで、丸一日かかったそれらの処理が今ではたった 90 分で完了しています。その結果、生産性が飛躍的に向上しただけでなく、労働力を削減して費用削減につなげることができました。我々が計画していたよりもはるかにスピーディに刷新プロセスを完了できるよう、インフォシスが主要プロセスの合理化をサポートしてくれたことに大変感謝しています。」と語っています。

10 億ドル規模の通信販売およびマルチチャネル・マーケティング大手企業である **Colony Brands** は、同社のメインフレームアプリケーションを Amazon Web Services クラウドと統合するにあたってインフォシスと提携しました。**Colony Brands 子会社 SC Data Center のバイスプレジデント兼 CIO**である **Steve Cretney** は、次のように話しています。「我々は、ビジネスにおける弾力性を高め、柔軟性の高いチームサイズによってピーク時の需要に対応し、なおかつ運用コストを削減するにあたってインフォシスと提携し、AWS クラウドとの統合戦略および当社メインフレームの改修方法について定義しました。この戦略には、顧客管理、製造、倉庫管理、通信販売プロセス及び債権処理などのコア・ビジネス・プロセスの再プラットフォーム化とリエンジニアリングを組み合わせる必要があり、今まさにその統合の真っ最中なのですが、我々はインフォシスとその専門知識や能力、実績等すべてにおいて信頼しており、重要な IT パートナーシップを長期間にわたって結んでいます」

NEW

新たなソフトウェアとサービスにおいても、我々は引き続き顧客へ新しい価値を提供しており、顧客が新たな可能性を発見し、これまでになかった手法でデータを活用し、自動化を通じて業務効率を大幅に向上し、複合システムに関するインサイトと知見を得られるよう支援しています。また、デザイン・シンキング・サービスを活用して、顧客が自分達にとって最も重要なビジネス課題が何であるかを洗い出し、さらにはその課題を解決できるようサポートしています。

顧客と企業の「働き」、「学び」、「遊び」のあり方を変えるテクノロジーの次の波は、コグニティブ・コンピューティングをベースとしたインテリジェント・アプリケーションや人工知能、ディープ・ラーニングです。我々がリリースした Mana を、幅広い業種において様々な顧客が使用しているという事実は、コグニティブ/人工知能産業が、もはや単なる研究の域を超えて商用ツールへとそのあり方を変化させており、さらには Mana が市場で実際に商用利用可能なコグニティブ/人工知能ソリューション・プラットフォームであることを意味しています。IDC は、プロセスの自動化、デジタル・トランスフォーメーション、顧客サービスの自動化、IT の自動化、アドバイザリー・サービスの自動化などの分野において、組織が Mana のようなコグニティブ/人工知能ソフトウェア・プラットフォームの適合性と実現可能性を積極的に評価するよう薦めています」と、IDC の **Cognitive Systems and Content Analytics research** のリサーチ・ディレクタ

一兼リード・アナリストである **Dave Schubmehl** は、[Infosys Mana: An Integrated AI Platform for the Enterprise](#) の中で述べています。

絶えず変化する世界において、そのエクスペリエンスの向上をビジョンに掲げる **Adient** は、各種産業用シートのグローバル・リーダーであり、すべての主要自動車メーカー及び車種で使用される自動車シートと部品を年間 2500 万台以上の車両に製造・納品しています。「我々は、自らの成長を促進する一方で、自動車産業界の顧客へ更なる価値を提供するために、デジタル・エコシステムを構築しているところです。インフォシスの知識集約型人工知能プラットフォーム **Mana** が、ロボットプロセス自動化と認知自動化の機能で我々をサポートしてくれるでしょう。**Mana** は、我が社の複雑なシステムにまたがるノウハウを特定して収集し、我々が俊敏性を高め、イノベーションを起こし、効率性を向上して卓越した企業となる手助けをしてくれると考えています」と、**Adient デジタル・オフィスのバイス・プレジデント Randy Urban 氏**は述べています。

米国最大の輸送・物流サービスプロバイダー**CSX** は、北米で最も安全で先進的な鉄道会社であり続けることをコミットしています。同社は、**CSX of Tomorrow** 戦略における事業変革の一環として、企業の競争優位性を高める最先端の革新的 IT インフラソリューションを組み入れるにあたりインフォシスと提携しました。

「我々は、戦略パートナーであるインフォシスと協働して、IT オペレーションを改修及び最適化するインフラソリューションの導入に取り組んでいます。このソリューションの導入によって当社の IT インフラを改革し、コア IT オペレーション・プロセスを簡素化するとともに効率性を高めることができると考えています。テクノロジーとは、CSX が高度に自動化された鉄道会社となり、その安全性、リソース効率、サービス品質を更に向上できるよう後押ししてくれるものであると考えています」と **CSX のアシスタント・バイス・プレジデント兼 IT インフラストラクチャ部門ヘッドの Caroline Crawford 氏**は話しています。

「**Globe** は、電気通信業界において変革の最先端を走るデジタルサービス・プロバイダーとして、デジタル・ライフを送るフィリピン人のニーズを満たす素晴らしい設備を整えています。現在我々は、人工知能のコンセプトと技術を採用して、これまでにないヒット商品を新たに産み出し、コスト効率を高めながらも 6800 万人を超える顧客に対してより向上したサービスを提供しようと考えています。TM Forum の Catalyst プログラムを通じて Cognitive Digital Agent (認知式デジタル・エージェント) の可能性と適合性を証明しようとしたとき、我々はそのパートナーにインフォシスを選びました。その理由は、電気通信業界におけるリーダーとしての同社の地位、さらには人工知能と機械学習プラットフォームに関する知識と経験の豊富さにあります。私は、当社とインフォシス、Amdocs 社、Huawei 社におけるパートナー・エコシステムによって、Cognitive Digital Agent がこの業界において潜在的な価値があること、さらにはお客様にどのようなサービスを提供できるかをによって証明することができ、またそれを TM Forum に評価していただいたことを嬉しく思っております」と、**Globe Telecom の最高情報責任者 (CIO) Pebbles Sy-Manalang 氏**は述べています。

EdgeVerve は、Finacle と Edge の多彩なソリューションで、さまざまな地域において **30 件の契約獲得と 26 件の本稼働**を達成し、強固な実績を収めました。

中東でもっとも評判の高い銀行のひとつである **Housing Bank** は、アルジェリアにおける同社銀行業務を強化するにあたって Finacle ソリューション・スイートを採用しました。「アルジェリア市場におけるプライベートバンクとして、当行は常に新しい製品とサービスを顧客に提供しようと考えています。また、今日の市場における競争や課題についても把握しており、IT の進歩がもたらす恩恵を活用して銀行業務、セールス、マーケティングを強化し補完することを、我々の戦略として掲げています。インフォシスの Finacle ソリューションが当行のミッションをサポートして、銀行における顧客体験を強化し、さらには革新を起こそうという行員の士気を鼓舞してくれると信じています」と、**Housing Bank Algeria のジェネラル・マネージャ Houcine Hannachi 氏**は述べています。

その他オファーに関しては、南アジアに拠点を置く大手畜産・農業企業が、サプライ・チェーン・プロセスを透明化するにあたり、EdgeVerve Blockchain Framework を採用しました。また、ファッション産業界のグローバル・リーディング・ブランドは、北米チャネルパートナー全体のセールスデータを可視化するにあたり、TradeEdge を採用しました

投資活動 & エコシステム

我々は顧客とのパートナーシップを深め、自らのテクノロジーや戦略を補完する専門知識に対して投資し、顧客やパートナーと共同で技術関連コミュニティに参加して、顧客への価値提供やインフォシスの新しい可能性の創造につなげてまいります。

我々は、Salesforce 社のアナリティクス・クラウド・アプリケーション導入サービスの構築と提供に焦点をおいた新しいビジネス手法を、同社と共同で作成する計画を発表しました。この導入パートナーシップは、ビジネスユーザが素早く自社データにアクセスして検討し、いち早く行動を起こせるようサポートします。初代アナリティクス・クラウド・パートナーのなかで、インフォシスはシステムインテグレーターとしてのリーダーシップに加え、豊富な実績を持つ独立系ソフトウェアベンダー (ISV) としての能力も提供することができるでしょう。「あらゆる企業がデータを検討して自らの回答を導き出し、対策をとるための方法を変革しようと模索する中で、当社のアナリティクス・クラウドは世界中で急速に導入されています。インフォシスのようなパートナーが、ベストプラクティスや業界経験、専門知識を提供してくれるおかげで、当社の顧客は、かつてないほど簡単にアナリティクス・クラウドを利用して、あらゆるビジネスニーズに対応することができるのです。」と、Salesforce のマーケティング・クラウド・CEO 兼 チーフ・アナリティクス・オフィサー Bob Stutz 氏は語っています。

インフォシスは、Oracle PartnerNetwork (OPN)において Cloud Elite ステータスを獲得し、Oracle の顧客が作業を分断することなくクラウド・トランスフォーメーション・ロードマップを実現できるよう支援しました。「インフォシスが Oracle PartnerNetwork の Cloud Elite Designation を獲得したという事実は、我々共通の顧客に求められるクラウド導入タイムラインを削減し、業界をリードするユース・ケース・ソリューションを提供できるというコミットメントの証です。同社の業界有数のクラウド・サービスは、プレビルト・インテグレーションを実現し、顧客体験を強化し、パーソナライゼーションを可能にするとともに、投資利益率ベースでの成果をもたらし、企業のクラウド・トランスフォーメーションをシンプル化してくれるでしょう」と、Oracle Worldwide Strategic Alliances のバイス・プレジデント Camillo Speroni 氏は述べています。

カルチャー

教育は、引き続きインフォシスの自動化及びイノベーション戦略の基礎であり、会社としてその変革を進めている最中です。この四半期を通じて、我々は、従業員の生涯学習に必要なインフラへの投資を促進しました。また、組織全体で 134,738 人の従業員を対象に、現在導入中のデザイン・シンキングやイノベーターのマインドセットをはじめとする取り組みを実施し、会社としての機能を引き続き強化しています。それ以外にも、新たな没入型・体験型のアプローチを我々の学習カリキュラムに導入しており、新しく開設した Power Programmers on Scala/AKKA では「飛行シミュレータ」モデルを採用しています。また、デジタル・プラットフォームを通じて、デジタル世代向けの教育を引き続き拡大し、デジタル・チューター社会学習プラットフォーム(モバイル機器からアクセスできる、クラウド上で利用可能なプラットフォーム)とインフォシス学習プラットフォームのいずれにおいても、技術とビジネスの効率性に関する様々なトピックスを加えた様々なコースを追加して本格稼働しています。

受賞および評価

- ガートナー・マジック・クアドラントの SAP®アプリケーション・サービス部門で北米リーダーに認定されました。
- ガートナー・マジック・クアドラントの SAP®アプリケーション・サービス部門で欧州リーダーに認定されました。
- ガートナー・マジック・クアドラントの Oracle アプリケーション・サービス部門で北米リーダーに認定されました。
- ガートナー・マジック・クアドラントの Oracle アプリケーション・サービス部門で欧州リーダーに認定されました。
- NelsonHall NEAT Big Data and Analytics のリーダーに認定されました。
- Horses for Sources Blueprint on Managed Security Service Providers で Winner's Circle に迎え入れられました。

- IDC MarketScape: Worldwide Omni-Channel Engagement IT Implementation Services 2017 Vendor Assessment でリーダーに認定されました。
- Ovum により、インフォシス Fincle がデジタル・バンキング・ソリューションのリーダーに格付されました。
- Finacle がアフリカの United Bank of Africa の Best Core Banking Project、中東の Emirates Islamic Bank の Best Core Banking Project を獲得し、Asian Banker Technology Innovation Awards 2017 を受賞しました。
- 事業価値を高め顧客と産業界における業務のあり方を変革する、極めて優れたソリューションを提供するパートナーに認定され、2017 IBM Beacon Award を獲得しました。
- 2017 年第 1 四半期発行の Forrester Wave(TM): Robotic Process Automation で、AssistEdge が競争力の高いオプションを備えた優秀なパフォーマーとしてランクインしました。Forrester より、「EdgeVerve Systems は、サービスと製品を統合したアプローチを提供し、AssistEdge は、他社よりも幅広いサービスアプローチを導入している」との評価を受けました。
- 2017 年 3 月リリースの Augmenting Automation Through AI (Webinar) の HfS Research Intelligent Automation Continuum で、Mana がリーディング・プレーヤーに認定されました。

事業外活動

2017 年度、我々は周辺のコミュニティにインフォシスの人員や専門知識を投入して、彼らに有意義な変化をもたらしました。

第 4 四半期、インフォシス基金は、Tamil Nadu, Telangana, Karnataka にある官立学校とトレーニングセンターに公衆衛生設備を建設することを確約しました。また、Akshaya Patra Foundation と共同で、学校に通う Jaipur の女子児童 20,000 人(年間)にカウンセリングを施し、携帯トイレを配布しました。さらに、この四半期における Sri Ramakrishna Sevashrama への寄付として、Pavagada および Karnataka 周辺の僻村に飲料水と物資を提供しました。

また、インフォシス・サイエンス・基金(ISF)はこの四半期に Bangalore で式典を開催し、文系および理系の上位研究者 6 名に Infosys Prize 2016 を授与し、科学と研究に対する彼らの感動的な道のりと貢献を称えました。

米国インフォシス基金は、Bootstrap, Exploring Computer Science, Uteach, Beauty and Joy of Computing, Mobile CS Principles への新しい教育者研修助成金を発表しました。これにより、全国の公立学校教師 500 人が、無償で米国での高度なコンピュータ・サイエンス(CS)専門能力開発研修を受けることが可能となります。また、以前より表明していた Code.org や DonorsChoose.org へのコミットメントを含め、我々が支援する教育者の数は、2017 年夏には前年の 2 倍となる 1,000 人にのぼり、コンピュータ・サイエンス教育を受ける新規生徒の数は何万人にもものぼる予定です。さらに基金は、引き続き Hispanic Heritage Foundation (HHF)を支援しており、同団体が 2017 年夏にスタンフォード大学で開催する LOFT Coder Summit をサポートして、より多くのラテンアメリカ系生徒や若い専門家達がコンピュータ業界で自身のキャリアを模索できるよう応援します。

当社について

インフォシスはテクノロジー・サービスとビジネス・コンサルティングのグローバル・リーダーです。当社は 50 か国以上の国々のお客様によるデジタル変革に向けた戦略の策定および実行を実現します。エンジニアリングからアプリケーション開発、知識管理および業務プロセス管理まで、当社はお客様が解決すべき問題を的確に把握し、効果的に解決するためのお手伝いをします。全世界で 20 万人以上のイノベーターから成る当社チームは創造力、あらゆる産業やテクノロジーに関する知識や経験で他とは一線を画し、その能力は当社が取り組むすべてのプロジェクトで活用されます。

www.infosys.com を訪れ、インフォシス(NYSE: INFY)がどのようにデジタル時代における企業の成功を支援しているかをお確かめください。

セーフハーバー条項

本プレス・リリースに掲載されている報告書の一部は、1995年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項の適用を意図した当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のあるITサービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2015年会計年度(2016年3月31日付)年次報告書(Form 20-F)を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合があります。また、本プレス・リリースは2017年4月13日付けで、ここに記載された将来の展望は、同リリース日において妥当と思われる想定に基づいています。当社は、法律により義務付けられている場合を除き、随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ

投資関連

Sandeep Mahindroo

+91 80 3980 1018

Sandeep_Mahindroo@infosys.com

メディア関連

Sarah Vanita Gideon

+91 80 4156 3998

Sarah_Gideon@infosys.com

Chiku Somaiya

+1 408 375 2722

Chiku.Somaiya@infosys.com

連絡先

インフォシス日本支店 マーケティングマネージャー

安藤 穰 mail: jo_ando@infosys.com

インフォシスリミテッドと子会社
無監査連結中間貸借対照表

(100 万ドル、株式データを除く)

	2016 年度	2015 年度
資産		
流動資産		
現金および現金等価	3,489	4,935
短期投資	1,538	11
売掛金	1,900	1,710
未請求収益	562	457
前払費用とその他流動資産	749	672
金融派生商品	44	17
流動資産合計	8,282	7,802
非流動資産		
有形固定資産	1,807	1,589
のれん	563	568
無形資産	120	149
関連会社に対する投資	11	16
非短期投資	984	273
繰延税金資産	83	81
所得税金資産	881	789
その他費流動資産	123	111
非流動資産合計	4,572	3,576
資産合計	12,854	11,378
負債および資本		
流動負債		
買掛金	57	58
金融派生商品	-	1
未払法人所得税	599	515
前受金	5	4
前受収益	274	201
従業員給付債務	209	202
引当金	63	77
その他流動負債	954	940
流動負債合計	2,161	1,998
非流動負債		
繰延法人所得税負債	32	39
その他非流動負債	24	17
負債合計	2,217	2,054
資本		
株式資本 額面価格 5 ルピー (0.16 ドル)		
授権株式 2,400,000,000 株 (2,400,000,000 株)		
発行済み株式 2,285,651,730 株 (2,285,621,088 株)		
自己株式 11,292,934 株 (11,323,576 株)		
2016 年 12 月 31 日現在 (2015 年度)	199	199
資本剰余金	587	570
利益剰余金	12,190	11,083
キャッシュ・フロー・ヘッジ準備金	6	-

	2016 年度	2015 年度
その他剰金	-	-
その他の資本構成要素	(2,345)	(2,528)
親会社の所有者に帰属する持分合計	10,637	9,324
非支配持分	-	-
資本合計	10,637	9,324
負債および資本の合計	12,854	11,378

インフォシスリミテッドと子会社
無監査連結中間包括損益計算書

(100 万ドル、株式データおよび 1 株当たり純資産データを除く)

	2016 年度 第 4 四半期	2015 年度 第 4 四半期	2016 年度	2015 年度
売上収益	2,569	2,446	10,208	9,501
売上原価	1,614	1,516	6,446	5,950
売上総利益	955	930	3,762	3,551
営業費用:				
販売費	133	134	535	522
管理費	188	171	707	654
営業費用合計	321	305	1,242	1,176
営業利益	634	625	2,520	2,375
営業外収益	112	114	459	476
関連会社の利益(損失)の分配	(4)	-	(5)	-
税引前利益	742	739	2,974	2,851
法人所得税費用	199	206	834	799
純利益	543	533	2,140	2,052
その他の包括利益				
損益に組み替えられない項目:				
確定給付純負債(または資産)の再測定	3	-	(7)	(2)
IFRS 9 の適用による上場債券の含み益戻入に対する累積影響	-	-	(5)	-
その他の包括利益による資本性金融商品	(1)	-	(1)	-
損益に組み替えられる項目:				
投資の公正な評価	(2)	3	(2)	6
キャッシュ・フロー・ヘッジに指定された金融派生商品の評価替え	2	-	6	-
海外事業の為替換算差額	441	11	198	(436)
その他の包括利益合計(税引後)	443	14	189	(432)
包括利益合計	986	547	2,329	1,620
当期利益の帰属:				
親会社の所有者	543	533	2,140	2,052
非支配持分	-	-	-	-
	543	533	2,140	2,052
包括利益合計の帰属:				
親会社の所有者	986	547	2,329	1,620

	2016 年度 第 4 四半期	2015 年度 第 4 四半期	2016 年度	2015 年度
非支配持分	-	-	-	-
	986	547	2,329	1,620
1 株当たり当期利益				
基本的 1 株当たり利益(ドル)	0.24	0.23	0.94	0.90
希薄化後 1 株当たり利益(ドル)	0.24	0.23	0.94	0.90
1 株当たり収益算定に使用される加重平均株式				
基本的	2,285,654,881	2,285,620,957	2,285,639,447	2,285,616,160
希薄化後	2,286,652,003	2,285,750,316	2,286,396,745	2,285,718,894

注:

- 2016 年度第 4 四半期および2016年度の無監査の連結貸借対照表および損益計算書は、2017年4月13日の取締役会にて記録されました。
- 当社の業績に関する概況報告書については www.infosys.com からダウンロードしてください。